

登校坂の桜の芽も膨らみ、春の訪れを感じる季節となりました。本日ここに、振興会会長 佐伯玄一郎(さえき げんいちろう)様、まつら同窓会会長 中島幸利(なかしま ゆきとし)様をはじめ、ご来賓の皆様方、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和元年度 佐賀県立唐津西高等学校 第六十四回卒業証書授与式を挙行できますことは、大変有り難く、心より厚くお礼申し上げます。

本日めでたく卒業される百八十二名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の四月、皆さんはこの場所で、当時の鶴田英二校長先生から入学を許可されました。鶴田校長先生は式辞の中で皆さんに「何よりも、自分と相手の「命と気持ち」を大切にするという姿勢を忘れずにいてください。実生活の中では、常に、「相手の目で見、相手の耳で聞き、相手の心で感じる」という気持ちを持ちながら、思いやりの心を忘れずに、生活してくれることを切望します。」と述べられました。皆さんはこの期待に応え、学習は勿論、部活動や学校祭において多くの素晴らしい成果を上げてくれました。何より、進学や就職という人生の節目である進路決定に際しては、最後まで諦めることなく、厳しい試験に耐え抜いて、挑戦してくれました。こうした皆さんの姿は、西高の伝統の中に、新たな一頁として書き加えられ、後輩たちが誇りを持って、しっかりと受け継いでくれるものと信じるとともに、皆さんに心から感謝します。それを温かく見守り、今まで一心に支えてこられた保護者の皆様のお喜びは如何ばかりかと、心からお祝い申し上げます。

さて、平成から「厳しい寒さのあと、美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた時代」という意味の令和の時代に、初めての卒業生である皆さんが巣立って行きます。平成の時代は、アナログからデジタルへと変化した情報社会 Society4.0 の時代でした。今までなかったパソコン、インターネット、携帯電話などが次々と出現し、スマートフォンという音声通話ができる小型コンピューターが流行りだしたのもわずか十年前です。皆さんは、AI やロボット、バイオなど加速度的に変化する Society5.0 (超スマート社会) の実現に向けて、技術革新が進展するなか生きていきます。「人生100年時代」を希望に満ち溢れ、生きていくためには、自分の夢や目標をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中で自分の役割を考え、自分の人生に「志」を持ってほしいと思います。この「志」という漢字の上部の「士」はもともと「之」の字が当てられており、「行く」という意味がありました。そして、「士」と「心」が組み合わせることで「心が行く」から「心が突き動かされる」と変化し、「志」という漢字ができました。自分の気持ちが向かうところ、つまり「内から発露される強い気持ち」を表現しています。例えば、「困っている人のために少しでも役に立ちたい」「ふるさと唐津に貢献したい」という思いを持てば、もう立派な「志」だと思います。では、「志」を持つためには心を変えなければなりません。

そこで次の言葉を卒業式に当たり贈ります。

心が変われば 態度が変わる。

態度が変われば 行動が変わる。

行動が変われば 習慣が変わる。

習慣が変われば 人格が変わる。

人格が変われば 運命が変わる。

運命が変われば 人生が変わる。

この言葉を心の片隅に置き、ぜひ人生の指針としてください。

ところで、本校は、一九〇七年（明治四十年）に町立唐津女学校として設立され、本年度創立百十二年目を迎えています。「朝（あした）に希望、夕べに感謝！」の建学の精神のもと、地元に貢献できる志のある人材の育成を目指してきました。皆さんが座っているこの椅子は、創立百十周年を記念して「まつら同窓会」の方々から寄贈されたものです。このように、卒業生の皆さんと学校は、同窓生という強い絆で結ばれているのです。そして、一度社会に出ると、辛いことや苦しいこと、泣きたくなるようなことがたくさんあります。でも、そんな時こそ、母校である唐津西高校を思い出してください。ここは、「志」に向かって、それぞれの分野で日夜頑張っている皆さんが、少し立ち止まって、自分の位置を確かめる場所です。母校の先生方や後輩たちと話をすることで、エネルギーを補給し、自分が進むべき方向を確認してみてください。いつでも遠慮無く来てください。お待ちしております。

最後になりましたが、改めて保護者の皆様にお礼を申し上げます。入学以来、本校の教育方針をよくご理解いただき、物心両面からご支援を賜りまして、誠に有り難うございました。子どもたちには言えない苦労も多々あったことかと存じますが、粘り強く寄り添っていただきましたことに心から感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、それぞれの新しいステージへの旅立ちの時です。伝統ある西高生としての誇りを胸に、しっかりと前を見て歩み続けてください。皆さんの前途が、美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた輝かしいものとなりますよう祈念しまして、式辞といたします。

令和二年三月一日

佐賀県立唐津西高等学校長

吉山 耕一郎